

名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター (CHT)

第3期 キックオフシンポジウム

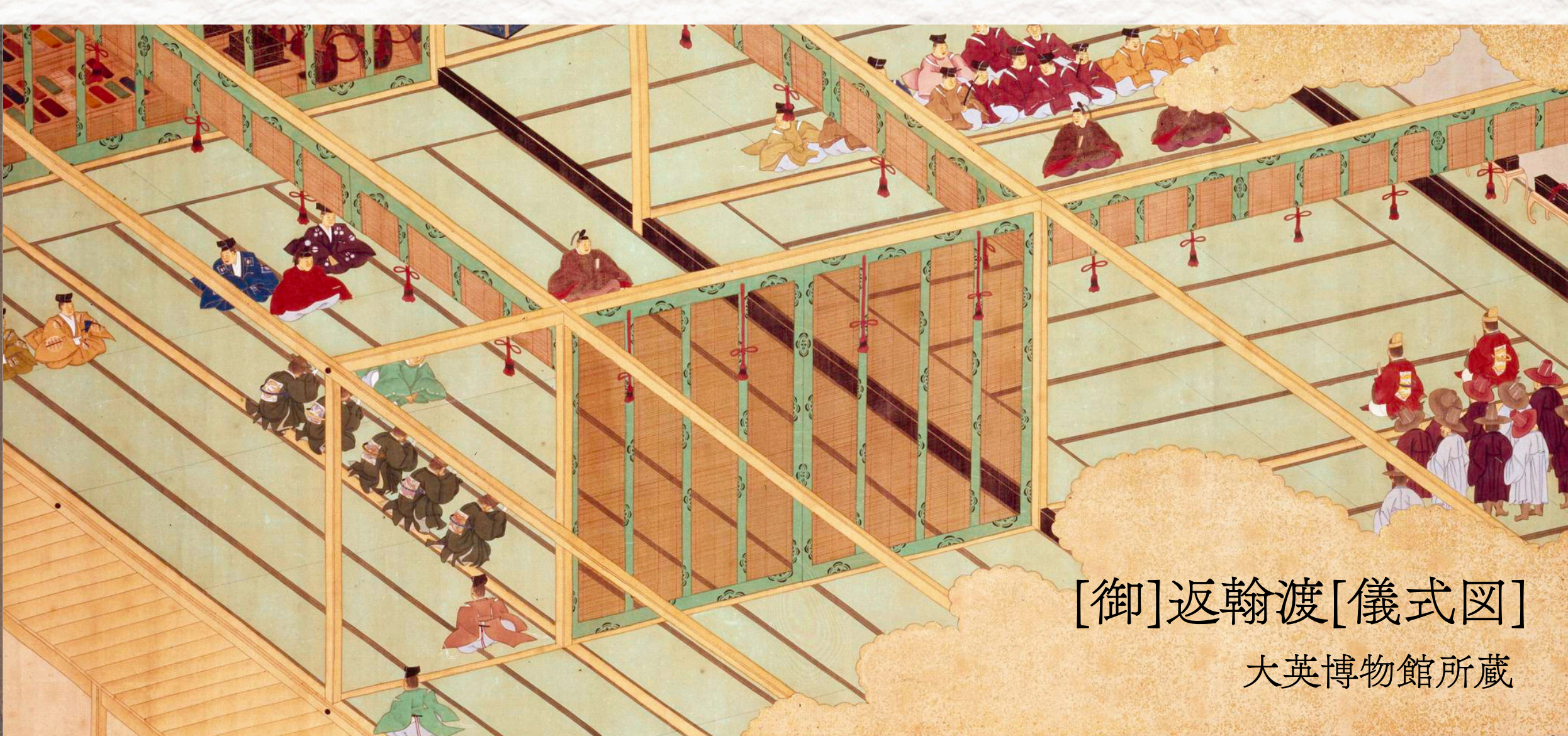
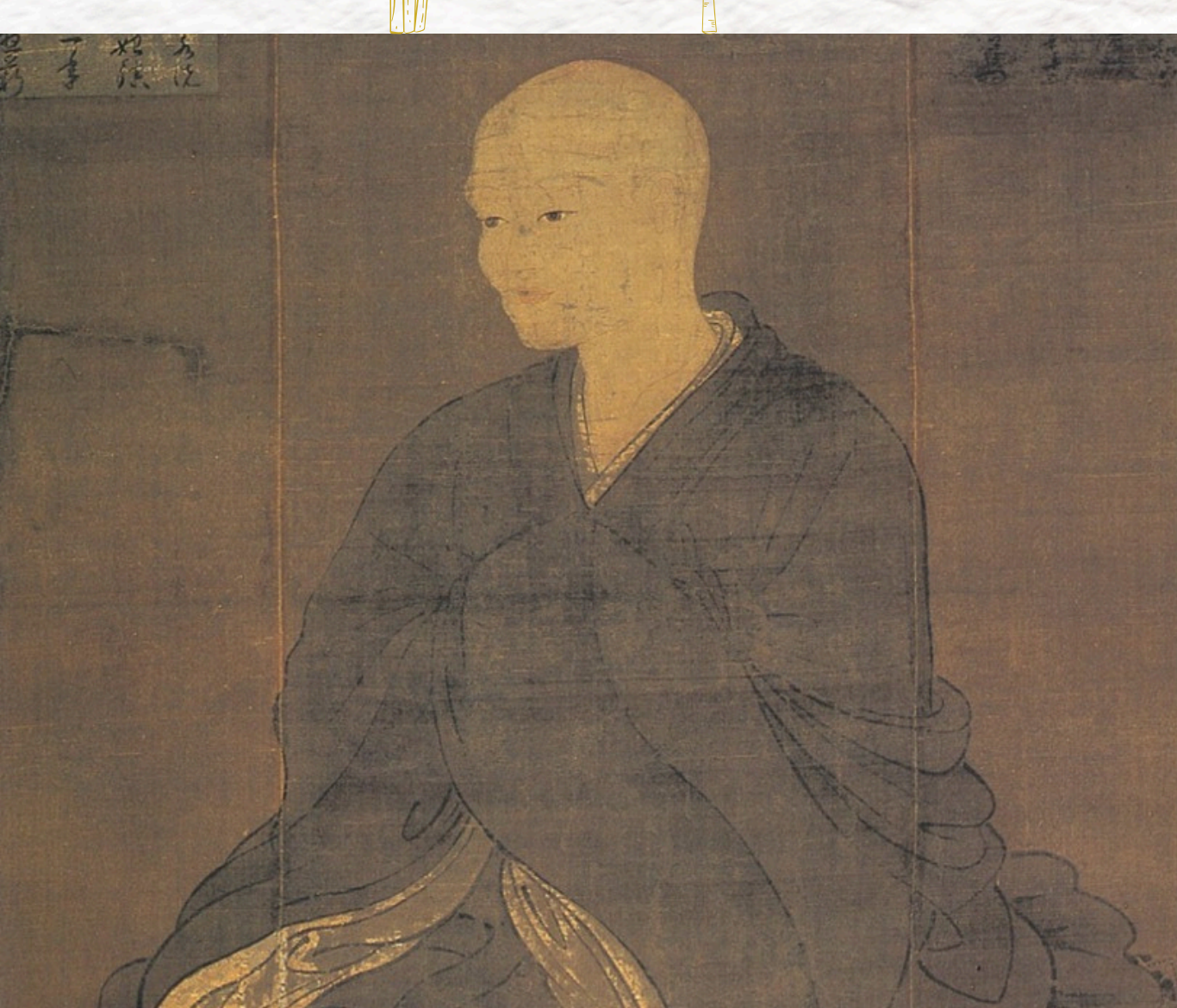
アジアの文化遺産と交流史

— 儀礼空間を巡って —

2025

3/10

16:00-18:30



[御]返翰渡[儀式図]
大英博物館所蔵



場所

名古屋大学
文系総合館7階カンファレンスホール

開催方法

ハイブリッド (対面/オンライン)

参加のお申し込みは こちら

お申し込みは
3月7日 金まで



<https://forms.gle/DjGcucKktuNNqgyz5>

主催
名古屋大学 最先端国際研究ユニット「文化遺産と交流史のアジア共創研究ユニット」
(代表: 梶原義実) / 人文学研究科附属 人類文化遺産テキスト学研究センター

共催
科研費基盤研究 (B) 「三関周辺における古墳時代から古代の地域動態に関する総合的研究」
(研究代表者: 梶原義実)

科研費基盤研究 (C) 「新出資料によるウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画の再検討」 (研究代表者: 影山悦子)

科研費若手研究 「寺院聖教からみる中世真言教学の実践と展開—頼瑠とその周辺を中心に」
(研究代表者: 郭佳寧)

開催趣旨

梶原義実

(名古屋大学 人文学研究科、ユニット代表者・CHTセンター長)

報告

「古代飛鳥宮をめぐる宗教的空間構成に関する予察」

梶原義実

(名古屋大学 人文学研究科、ユニット代表者・CHTセンター長)

「シルクロードの商人ソグド人の宗教儀礼

—考古資料による検討—」

影山悦子 (名古屋大学 人文学研究科)

「中世・近世禅宗における七堂伽藍について」

Steffen Döll (ハンブルク大学 人文学部)

「真言密教における講とその儀礼空間」

郭佳寧 (名古屋大学 人文学研究科)

「朝鮮通信使と琉球使節の外交儀礼」

程永超 (東北大学 東北アジア研究センター)